

## 【テーマ】 月のフシギ

【対象】 小学校 3・4年生

【所要時間】 30分

### 【紹介する本】

	書名	著者名	出版社	出版年
1	もしきみが月だったら	ローラ・パーディ・サラス／文 ジェイミー・キム／絵 木坂涼／訳	光村教育図書	2017
2	月の満ちかけ絵本	大枝史郎／文 佐藤みき／絵	あすなろ書房	2012
3	大きさくらへ絵事典	半田利弘／監修	PHP 研究所	2010
4	月を知る！	吉川真／監修 三品隆司／構成・文	岩崎書店	2017
5	カマキリと月	マーグリート・ポーランド／作 さくまゆみこ／訳 リー・ヴォイト／画	福音館書店	2004

### 【シナリオ】

#### ●導入

今夜の月はどんな形でしょうか。三日月でしょうか、満月でしょうか。月は、毎日違う姿を見せる、不思議な天体です。「月」について考えてみましょう。

#### 1 『もしきみが月だったら』

女の子が月に「なんにもしないでそらにうかんでいるだけでいいなあ」に語りかけると、月は「こうみえてもいろんなことをしているんだよ」と応えます。さて、月は空で何をしているのでしょうか？

**読み聞かせをする（各ページの詳細説明は読まない）**

もし、月になったらやることがたくさんありますね？

この絵本は、各ページに月に関する説明も載っています。月の満ち欠けのページを見てみましょう。

**月の満ち欠けのページの詳細説明を読む** 【じっさいに月がほそくなったり、まるくなったりし

ているわけではありません。月と地球と太陽の位置によって、太陽の光のあたりかたがかわり、月がほそくみえたり、まるくみえたりするのです。このように、月のみえかたがかわることを、「月の満ち欠け」といいます。月は約1か月かけて、満ちて欠けていきます。】

この、月の満ち欠け、とても不思議ではありませんか？もう少し詳しく見てみましょう。

#### 2 『月の満ちかけ絵本』

**表紙を見せる**

様々な形の月が描かれていますね。だんだん太くなったり細くなったりしています。ほぼ1か月の間にこれだけ月の表情が変わります。この本は、月の満ち欠けのしくみや、月と私たちの生活の関わりが詳しく書かれています。

### **p.5の図を見せて**

この図を見てください。ここには、太陽と地球、そして月が描かれています。このように、月が地球から見てどのあたりにいるかによって、照らされるところが変わり、地球からは形が違って見えます。

### **p.10を見せて**

ここでは、三日月について書かれています。三日月は、月の横側が照らされている状態です。出ている時間が短いことから、見つけられたらラッキーな月であり、昔から望みを叶えてくれる月と言われてきたそうです。

### **p.20を見せて**

満月は、表面がすべて照らされている月のことです。ここでは、満月の中でも特に明るく見える9月の満月、「中秋の名月」について書かれています。どうして一年の中でも、9月の月は美しく見えるのでしょうか？その答えが、この本に書かれています。

月の満ち欠けだけでなく、日食や月食、月の模様などについても書かれています。この本を読むと、夜に月を見るのが楽しくなります。

月は、日や時間によって、とても大きく見えることがあります。

どうして大きく見えたり、小さく見えたりするかは、まだ謎なのだそうです。では、本当の月の大きさはどのくらいでしょうか？

## 3 『大きさをくらべ絵事典』

### **表紙を見せる**

この本には、いろいろな物の大きさが書かれています。

### **p.50を見せて**

さて、月の大きさはどうでしょう？これを見てください。左にあるのが月、右にあるのが地球です。月は、てっぺんから真下までおよそ3500キロメートル。地球を四つに割って一つくらいの大きさです。

では、地球と月はどのくらいの遠さでしょう？

### **p.51を見せて**

こちらのページには、地球と月の距離が書かれています。ここにずらりと並んでいるのは地球です。月までの距離は、なんと地球30個分！地球と月の距離は、およそ38万キロメートルです。月はこんなに遠くにあったのですね。

月や地球だけでなく、太陽や他の星の大きさも比べることができます。月と火星はどっちが大きいと思いますか？この本で調べてみてください。

現代ではこのように科学の進歩によって、月の大きさや地球からの距離、満ち欠けのしくみなどを知ることができますが、では、そうした知識のなかった昔の人々は月をどんな風に感じていたのでしょうか。

## 4 『月を知る！』

### **p.48を見せて**

古代から月は太陽とならび人類にとって特別な存在でした。それは日本人にとっても同じで、月を詠んだ短歌や月を題材にしたお話があります。みなさんは「かぐや姫」という昔話を知っていると思います。竹から生まれたかぐや姫が美しく成長しますが、実は月の住人で、やがて月に帰ってしまうというお話で、「竹取物語」とも言います。月にも人間が住んでいるという発想には、当時の

人の月への憧れがあったのかもかもしれません。

### **p.58～59を見せて**

月には模様があるように見えますが、みなさん何に見えますか？

日本では「ウサギのもちつき」と言いますね。では、世界各地ではどうでしょう？この本で調べてみてください。

また、世界には月の形に見立てた様々な食べ物があります。皆さんはうどんやそばに卵を入れて食べたことはありますか？これは卵を満月に見立てた月見うどんです。関東ではそば、関西ではうどんが多いそうです。

私たち人類は、昔から月を様々なものに見立てたり、生活に取り入れたり、絵画や文学などで表現してきたのですね。そして、「かぐや姫」のように世界中で月を題材にした物語が、たくさん生まれました。その中のひとつを最後に紹介しましょう。

## 5 『カマキリと月』

この本は南アフリカの人々の世界観やものの見方をよりどころにして書かれた短編集で、8つのお話が入っています。その中に『カマキリと月』というタイトルのお話があります。

### **p.11～p.12 7行目を読む**

【月をつかまえようとしたカマキリがいました。月にまたがっ

て、毎晩空をわたってゆきたいと思ったのです。～(中略)～月のことしか考えず、どうやったら月をつかまえることができるだろうかと頭をひねっていました。】

カマキリは月をつかまえることができるでしょうか。気になった人は読んでみてください。

### ●まとめ

今日は、「月のフシギ」と題して本を紹介しました。今夜の月を見るのが楽しみですね。紹介した本はすべて図書館にあるので手に取ってみてください。

【その他の本】こちらの本もおすすめです。また、ご自身で追加・差し替えをするなど工夫してみましょう。

- ・『つき』山田和／さく 福音館書店 1981
- ・『月へ行きたい』松岡徹／文・絵 福音館書店 2011
- ・『月へ アポロ 11号のはるかなる旅』ブライアン・フロッカ／作・絵 日暮雅通／訳 偕成社 2012
- ・『竹取物語』越水 利江子／文 小坂 伊吹／絵 いのうえ たかこ／絵 学研プラス 2017
- ・『つきにいったうさぎのおはなし』はっとり みほ／え あがた ひでひこ／かんしゅう 学研教育出版 2015
- ・『やさしくわかる星とうちゅうのふしぎ 1 月と地きゅう』渡辺 勝巳／監修 汐文社 2017
- ・『月夜のでんしんばしら』宮沢賢治／作 竹内通雅／絵 三起商工 2009
- ・『ながいよのおつきさま』シンシア・ライラント／作 マーク・シーゲル／絵 渡辺葉／訳 2006
- ・『月からきたトウヤーヤ』蕭甘牛／作 君島久子／訳 岩波書店 2017

山梨県立図書館 2018.3